EPP/EDRソリューション

ウォッチガードのエンドポイントセキュリティ

高度な脅威に対する防御、検知、レスポンスを可能にする広範な保護機能を提供

サイバー犯罪者にとってエンドポイントは恰好の標的であり、既知の脆弱性やアップデートされていないソフトウェアが悪用されています。こうしたエンドポイントのデバイスは、企業のゲートウェイセキュリティに保護されることなくインターネットに接続されており、最悪の場合、従業員のデバイスを通じてハッカーたちに企業内部のエンドポイントやネットワークへの侵入を許してしまうことになります。今や企業は規模を問わず、高度なエンドポイント検知／レスポンス（EDR）テクノロジーと連携した、エンドポイント保護（EPP）を含む強力なエンドポイントセキュリティを導入する必要に迫られています。

ウォッチガードのエンドポイントセキュリティプラットフォームは、エンドポイントセキュリティの複雑性を極力排除しつつ、保護効果を最大限に発揮するように設計されています。ユーザーを中心に据えたウォッチガードのセキュリティ製品／サービスは、高度なEPP/EDRアプローチを採用しており、セキュリティ／運用ツールの包括的なスイートにより、不正なWebサイト、マルウェア、スパム、およびその他の標的型攻撃から人、デバイス、ネットワークを守ります。WatchGuard EPDRとWatchGuard EDRは、AIを活用した自動プロセスやセキュリティアナリストによる調査サービスを元に脅威ハンティングサービスを提供しており、アプリケーションを100%分類することにより、実行中の全てのアプリケーションの正当性と安全性を証明します。ゼロトラストセキュリティモデルを採用する企業にとって、こうした機能は必須だと言えます。

善悪を100%の確度で判断

一般的なエンドポイントセキュリティ製品は、既知の攻撃をブロックし、疑わしきものを調査しますが、未知の攻撃は通過させてしまい、急速に変容するマルウェアがその他の未知のトラフィックとともに防御を回避することを許してしまいます。それに対して、WatchGuard EDRとWatchGuard EPDRは、ゼロトラストアプリケーションサービスを提供しており、ウォッチガードのクラウドプラットフォームにおける専用の機械学習アルゴリズムを用いて、疑わしい、あるいは未知のプロセスやアプリケーションを全て分析することにより、実行ファイルを100%分類し、さらに必要に応じて専任技術者が検証します。その結果、全ての実行ファイルの善悪が判明するため、セキュリティ担当者へのアラートの乱発を防ぎ、疑いの目を向けることを前提としたゼロトラストモデルから得られる究極の保護能力を獲得することができます。

直感操作に優れたクラウド管理

IT担当スタッフやセキュリティの専門家が限られている企業にとって、WatchGuard Cloudは大きなメリットをもたらします。ウォッチガードのクラウド管理プラットフォームにより、エンドポイントセキュリティ製品の実装、構成、管理の手間を軽減することができます。また、セキュリティエンジン、シグニチャ、URLフィルタリングを含む、エンドポイントに対するリアルタイムの保護およびコミュニケーション機能を提供し、短時間で多数のデバイスにタスクや構成を送信することが可能になります。さらに、WatchGuard Cloudでは一元的にポートフォリオ全般を管理し、インフラコストを削減するとともにレポーティングや運用業務の手間を省くことができます。

スタッフを増やさずに潜在的な脅威を発見

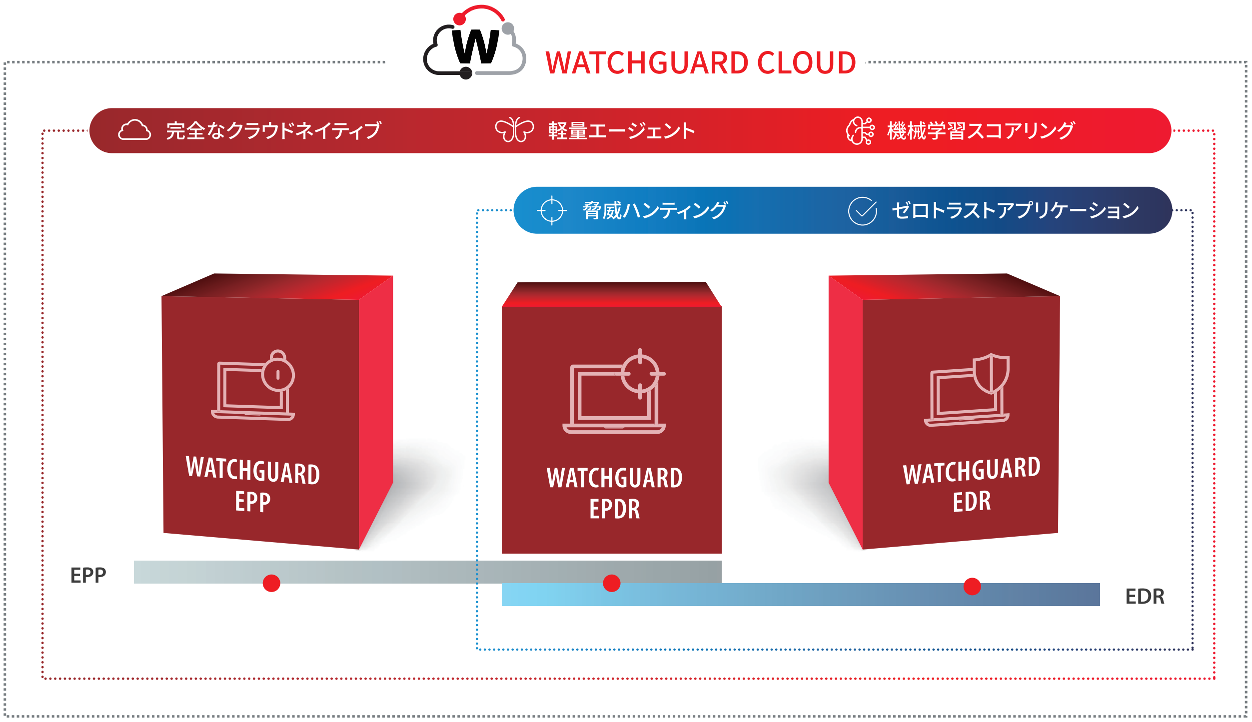
脅威ハンティングでは通常、高度なスキルが求められ、脅威を検知し、修復に必要な知見を獲得するのに多くの時間を費やします。ウォッチガードの高度なEDRソリューションでは、脅威ハンティングサービスを提供しており、ウォッチガードのセキュリティアナリストがお客様のエンドポイント環境を監視し、根本原因分析、異常検知、関連するITの洞察、潜在的な攻撃対象領域の削減計画など、進行中の攻撃の可能性に関する情報をお知らせします。これらはWatchGuard EDRとWatchGuard EPDRが基本的に備えている機能であり、感染したエンドポイントの調査にITスタッフが時間を割く必要がなくなります。

近 日 公 開

セキュリティ、可視化、運用機能の拡張

全てのEPP/EDRセキュリティ製品を対象に、以下のオプションモジュールの提供を予定しています。①サードパーティアプリケーション向けのオペレーティングシステムや、サポートが終了した（EOL）ソフトウェアプログラム向けのアップデートやパッチを一元管理するパッチ管理ツール。②エンドポイント情報を暗号化／復号化する完全暗号化ツール。③セキュリティインテリジェンスを生成し、攻撃や異常な振舞いを検出する高度なレポーティングツール。④エンドポイントに保存されている個人の非構造化データのディスカバー、分類、監査、監視を行うデータ制御ツール。⑤デバイスで稼働する全てのプロセスを監視することで、新たな重要情報を生成するSIEMフィーダー。⑥ITインフラ全般を管理、監視、維持するシステム管理ツール（RMM：リモート監視／管理）。

柔軟なオプションを備える包括パッケージであらゆるニーズに対応



WatchGuard EDRとWatchGuard EDPR

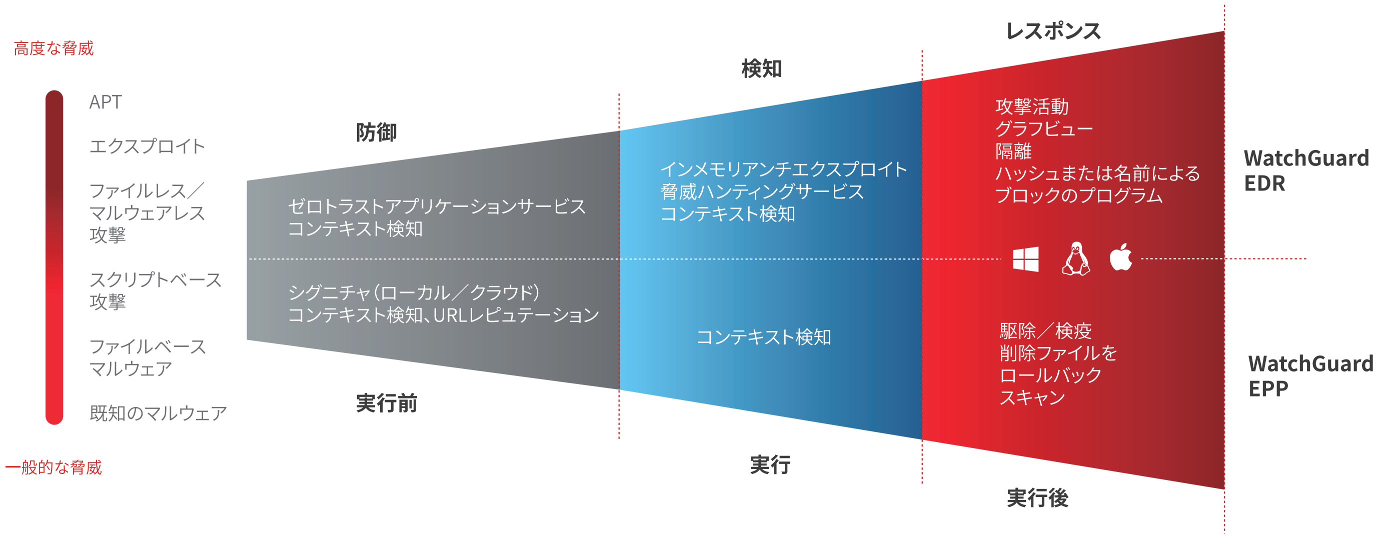
- 最新の機械学習およびディープラーニングAIモデルを活用して、ゼロデイ攻撃、ランサムウェア、クリプトジャッキング、およびその他の高度な標的型攻撃を防御する強力なエンドポイント検知／レスポンスを提供
- EDRのみ（WatchGuard EDR）またはEPP + EDR（WatchGuard EPDR）から選択可能

  ゼロトラストアプリケーションサービスにより、アプリケーションを全て分類し、ゼロトラストモデルの実装に必要なレスポンスを実現

  脅威ハンティングサービスから得られる知見により、スタッフの業務効率を向上
- ワンパッケージで、ウォッチガードのエンドポイント検知／レスポンスおよびエンドポイント保護機能を備えるWatchGuard EPDRにより、きめ細かい防御を可能にするエンドポイントセキュリティを実現

WatchGuard EPP

- シグニチャ、ローカルキャッシュ、そしてWatchGuard EDRとWatchGuard EPDRが過去に検知したマルウェアから取得した独自のインテリジェンスフィードにより、ウイルス、マルウェア、スパイウェア、フィッシングを防御
- ウォッチガードは多くの異なるデバイスをサポートする組織を支援しており、WatchGuard EPPは、Windows、macOS、Linuxのデスクトップ、ラップトップ、サーバを始めとして、著名な仮想システムやAndroidデバイス向けに、一元的な次世代アンチウイルスを提供し、ユーザーが利用するAndroidのスマートフォンやタブレットに保存されているデータの安全性と機密性を集中管理
- 振舞いヒューリスティックや、既知の攻撃インジケータを「コンテキストルール」として活用することにより、ゼロデイエクスプロイトを検知



セキュリティをアップグレード

1.在宅勤務が増えており、社員の勤務地の分散化に対応するには、新たな保護機能が必要になります。

WatchGuard PassportにはWatchGuard EPDR、DNSファイアウォールのWatchGuard DNSWatchGO、そして多要素認証のWatchGuard AuthPointが含まれています。これらのソリューションを組み合わせることにより、広範な脅威に対応することができます。エンドポイントセキュリティのみならず、従業員のクレデンシャルの紛失・盗難による企業リソースへの侵入を防ぎ、大規模攻撃に用いられる攻撃ベクターを防御することができます。

★ 推奨ソリューション：WatchGuard Passport

2.エンドポイントを起点とする他のエンドポイントや企業ネットワークへの攻撃後、もしくは潜伏するマルウェアの発見後に素早くリカバリ対策を施すことが大切です。

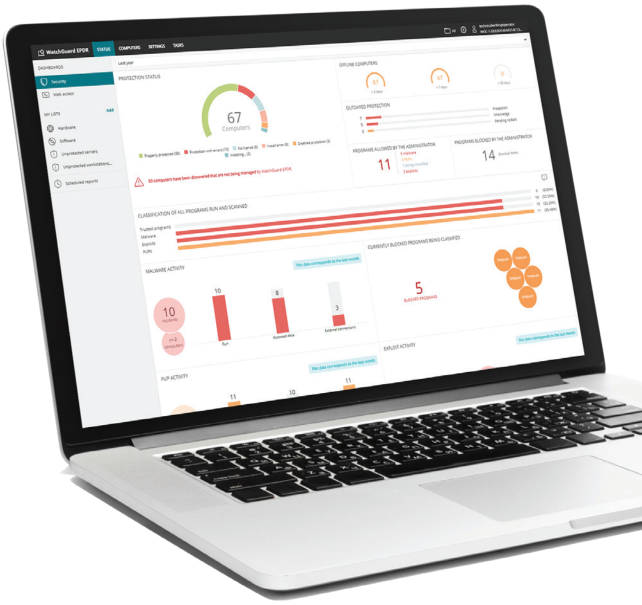
多くの企業はサイバー犯罪への対策が必要であることを認識していますが、保護レベルが十分ではない場合が多いと言えます。高度な保護機能を備えるWatchGuard EPDRはゼロトラストアプリケーションサービスと脅威ハンティングサービスを提供しており、これらのサービスを活用することで、ウォッチガードのサポートチームが調査・修復するマルウェアベースの攻撃数はゼロに近づいています。つまりそれだけ防御することに成功していると言えます。さらに、可視化および管理ツールを併用することにより、日常的に負担の多いITチームの生産性を上げ、繰り返される攻撃とコストのかかる修復作業を削減することが可能になります。

★ 推奨ソリューション：WatchGuard EPDR

3.セキュリティに対する計画的な投資として、既存のAVソリューションにEDRを追加することが重要です。

企業によっては、エンドポイントのセキュリティリスクを認識し、AV製品を導入したのはいいが、ハッカーに対抗するにはEDRソリューションが必要であることを理解しています。こうした場合、AV製品の契約更新を待たずして、既存のAVにWatchGuard EDRソリューションのレイヤを追加するだけで、ウォッチガードの高度で差別化されたアプローチから素早くメリットを得ることが可能になります。

★ 推奨ソリューション：WatchGuard EDR



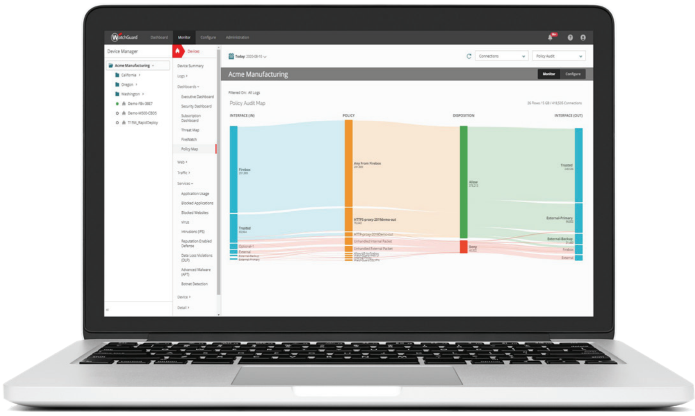
4.無料またはコンシューマグレードのエンドポイントAV製品をアップデートする必要があります。

中小企業、あるいはネットワークの境界を越えるデバイスが少ない企業では、リスクが少ないことを想定して、セキュリティへの投資を先延ばしにしている場合があります。しかしながらビジネスは刻一刻と変化しており、企業の情報漏えいリスクは高まり、益々厳格化するデータセキュリティおよびプライバシー規制を遵守する必要性が出てきており、WatchGuard EPPのようなビジネスグレードのソリューションに移行する企業が増えています。WatchGuard EPPは、マルウェアのシグニチャを含む強力なシグニチャベースの保護機能、並びに振舞い分析、Webコンテンツフィルタリング機能を備えており、ビジネスの成長に応じて拡張できるプラットフォームを採用しているため、将来的にも安心して利用することができます。

★ 推奨ソリューション：WatchGuard EPP

WatchGuard Cloud

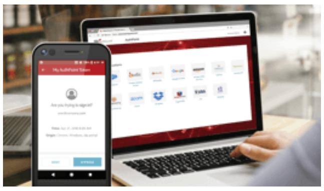
- 膨大な数のデバイスにリアルタイムに接続し、数秒でタスクを適用
- 全てのウォッチガード製品をコンソールで集中管理
- Windows、Linux、macOS、Androidを含むあらゆるエンドポイントプラットフォームを横断してデバイスを管理



ウォッチガードの統合型セキュリティプラットフォーム

ネットワークセキュリティ

ウォッチガードのネットワークセキュリティソリューションは、容易な実装、操作、管理を念頭に設計されており、強力なセキュリティ機能を提供します。また、ネットワークセキュリティに対する独自のアプローチは、組織の規模や業種、あるいはセキュリティの専門知識を問わず、ベストインクラスかつエンタープライズグレードのセキュリティの提供にフォーカスしています。



多要素認証

WatchGuard AuthPointは、操作性に優れたクラウドプラットフォームを活用した多要素認証により、パスワードを使用するセキュリティを強化するソリューションです。ウォッチガードの独自のアプローチでは、身近なスマートフォンを認証手段として活用し、機密データを扱うネットワークやクラウドアプリケーションへの本人アクセスを保証します。

セキュアクラウドWi-Fi

ウォッチガードのセキュアWi-Fiソリューションは、今日の市場における真のゲームチェンジャーであり、Wi-Fi環境に安全で保護された空間を提供しつつ、管理負荷とコストの削減も実現します。また、広範なエンゲージメントツールや業務分析の可視化機能も備え、企業の成功に欠かせない競争優位性をもたらします。

エンドポイントセキュリティ

ウォッチガードのエンドポイントセキュリティは、クラウドネイティブの高度なエンドポイントセキュリティポートフォリオにより、現在および将来にわたるあらゆるサイバー攻撃から企業を保護します。フラグシップソリューションであるWatchGuard EPDRはAI（人工知能）を活用し、組織のセキュリティ体制を大きく改善します。エンドポイント保護（EPP）および検知／レスポンス（EDR）機能とともに、ゼロトラストアプリケーションサービス、脅威ハンティングサービスを提供します。

詳細について

本ソリューションの詳細についてはセールス担当者にお問い合わせいただくか、https://www.watchguard.co.jpをご覧ください。

【WatchGuard Technologiesについて】

WatchGuard® Technologiesは、ネットワークセキュリティ、エンドポイントセキュリティ、セキュアWi-Fi、多要素認証、ネットワークインテリジェンスを提供するグローバルリーダとして、全世界で約18,000社の販売パートナーおよびサービスプロバイダを通じて、250,000社以上の企業に信頼性の高いセキュリティ製品／サービスを提供しています。ウォッチガードのミッションは、中堅・中小企業や分散拠点を持つ大企業がエンタープライズレベルのセキュリティをシンプルに利用できるようにすることです。本社を米国ワシントン州シアトルに置き、北米、ヨーロッパ、アジア太平洋地区、中南米に支社を展開しています。日本法人であるウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社は、多彩なパートナーを通じて、国内で拡大する多様なセキュリティニーズに応えるソリューションを提供しています。詳細はhttps://www.watchguard.co.jpをご覧下さい。

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社

〒106-0041 東京都港区麻布台 1-11-9 BPR プレイス神谷町 5 階
TEL：03-5797-7205　FAX：03-5797-7207　www.watchguard.co.jp

©2021 WatchGuard Technologies, Inc. All rights reserved. WatchGuardおよびウォッチガードのロゴはWatchGuard Technologies, Inc.の登録商標です。その他の商標や商号は各社に帰属します。本カタログに記載されている仕様および内容は予告なく変更される場合があります。(2021年9月)